

♪ 2024年度

poco a poco

♪

Nr. 18 2025年1月23日(木) 文責:プファイル・辰巳

Anfang und Ende vom Januar zeigen das Wetter fürs ganze Jahr.

訳せば「1月の始めと終わりのお天気が、その年のお天気を示す」とでもなりましょうか。

日本にもお天気に関することわざがあります(例えば、「朝焼けの日は雨になる」など)が、ドイツにも年間を通じてたくさんの **Bauernregeln** (お百姓さんのルール) と呼ばれる、ことわざのようなのがあります。冒頭の文もその一つです。さて、今年1年のドイツのお天気はどうなるのでしょうか。年末年始のお天気はあまりよくありませんでしたが、その後は青空の見える日もあった1月も半ばを過ぎました。今年1年、大雨や洪水などの災害のない1年になってほしいものです。



音楽こぼれ話 <音を出さない音楽家 ~ 指揮者②>

前回はお二人の日本を代表する指揮者、小澤征爾氏と佐渡裕氏に関する書籍を紹介しました。今回は、その「指揮者」の役割について、もう少し考えてみたいと思います。

オーケストラの中で唯ひとり、音を出さない音楽家が「指揮者」です。それでいて、オーケストラの響きを大きく左右するのも「指揮者」です。指揮棒1本で自由自在・・・というわけではありませんが、指揮者が変わると、オーケストラの響きや曲の雰囲気が一変することもよくあることです。

オーケストラを指揮する前に、指揮者は楽曲(楽譜)を細部にわたって研究します。作曲家は何を意図して音楽を作り、楽器編成を決めたのかを自分なりに解釈し、響きを想像する必要があります。

次に、オーケストラとの練習の段階で自分の解釈を理解してもらい、演奏者

とのセッションの中で、お互いに納得のいく響きを作っていかなければなりません。ここまでの作業がしっかりできておれば、本番はもう大船に乗ったような気分で、聴衆とともに音楽を楽しむことができるのではないのでしょうか。

指揮者の役割は、ただ単に本番での速さや強弱を指示するだけではなく、オーケストラの団員とともに、音楽を創り上げる重要な役割を担っていることが分かります。

前回紹介した本の中で、佐渡裕氏も、オーケストラのとの練習の前に、膨大な時間をかけて楽譜を研究するのだと書いておられました。そういう意味で、自分は芸術家というよりは「職人」であるとも、書いておられました。

世の中には様々な職種があり、それぞれの分野で「職人技」と呼ばれるようなすばらしい技術を持った専門家がおられます。芸術しかり、スポーツしかり、物づくりしかり・・・。道を究めようと思うならば、どんな分野でも腕を磨く職人さんのような日々の努力と忍耐が求められるということですね。

ちょっとだけ 演奏会情報

Bad Homburger Schlosskonzerte

(バード ホンブルグのお城コンサート)

※コンサートは城内の教会で開催されることが多いです。

- | | |
|----------|---|
| 1月31日(金) | 19時30分から |
| | クリスティナ・マルロフのピアノリサイタル
ハイドン、ショパン、リストのピアノ曲 他 |
| 2月28日(金) | 19時30分から |
| | ローレンス・パツラフのピアノのリサイタル
モーツァルト、ベートーヴェンのソナタ 他 |
| 3月7日(金) | 19時30分から |
| | マインツ弦楽アカデミーの演奏
ヴィヴァルディ 4つのヴァイオリンのための協奏曲
J.S.バッハ ブランデンブルグ協奏曲 他 |

IMFO+チケット: www.badhomburger-schlosskonzerte.de